

第3回経営顧問会議議事概要（案）

1. 日 時 平成19年4月16日（月） 13:30～15:30

2. 場 所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第一会議室

3. 出席者

（議長）有馬議長

（委員）内永委員、勝俣委員、住田委員、内藤委員、野口委員、細川委員、
毛利委員、森島委員

（機構）岡崎理事長、早瀬副理事長、中島理事、木村理事、石村理事、
野村理事、柳澤理事、三代理事、中村監事、富田監事

4. 議 題

- (1) 開会挨拶
- (2) 第2回議事概要(案)確認
- (3) 第2回のご意見への対応について
- (4) 原子力機構の状況報告について
- (5) 主要事業の国際協力の進め方について
- (6) 意見交換
- (7) その他
- (8) 閉会の挨拶

5. 配付資料

- 3-1 経営顧問会議委員構成
- 3-2 原子力機構の役員
- 3-3 第2回経営顧問会議議事(案)概要
- 3-4 第2回経営顧問会議におけるご意見への対応
- 3-5 原子力機構の状況報告について
- 3-6 主要事業の国際協力の進め方について

6. 議事概要

（「第2回ご意見に対する対応」における主な発言）

- 安全・安心の取り組みは現場の問題であることは確かであるが、今一番重要なことは、安全・安心を高めるための経営の工夫である。経営として安全に対しどういうメッセージをだすのか、どういうチェックをするのか、所謂、安全を確保するための経営としての技術が求められているということである。是非、経営の中でどう工夫するのか、どう担保するのか検討して欲しい。
- 研究機関であるから、人材がもっとも重要であるが、職員にどういうゴールを与えるか、どういうミッションを与えるかということが経営としては重要なことである。さらに、それに対して、どうしているかフォローし、評価し、インセンティブを与えて続けていくことも重要。是非、具体的なインプリメンテーションをして欲しい。また、統合してからの文化の一体化が重要であるが、チームワークよく一体化は実現しているのか。

（「意見交換」における主な発言）

- J-PARC の予算に関して、折角できても運転維持費（電力代等）がなければ有効に活用できない。是非、有効に活用できるように手当てして欲しい。NPT 不参加国が J-PARC に参画することは、もんじゅ等ならば問題となろうが、J-PARC が純粋科学の分野なので大丈夫だろう。できるだけ多くの国で有効に活用して欲しい。
- 大学における原子力に対する人気は低下している。工学部で原子力を復活させる取り組みが必要。機構が積極的に貢献することをお願いしたい。生徒だけでなく先生方をもエンカレッジして欲しい。
- 「研究開発のあり方」について日本の技術をグローバルスタンダードとすることは賛成である。グローバルスタンダードとするために具体的にどうするのか。どう焦点をあて、どう情報入手して、どう対応していくのか。また、実施主体として中核メーカーを選択するというが、長期間にわたり、国際標準を維持できる企業たるかはどう見るのか。「予算」については、石油からの財源を有効に活用することが重要。今までそれを使っている人たちは反対するだろうが、説得し、納得させる説明が必要。来年の G8 のテーマもエネルギー安全保障と地

- 球環境問題である。それを議論すると原子力の有効性は大きくなり得る。日本はフランス等と協力して、原子力はクリーン・エネルギーだと言って欲しい。
- 各事業がこれだけ大きなプロジェクトになると、マネジメントが重要になり、役員個人では無理、システムとして必要。どこにどんなリスクがあり、どう対応しようとしているのかという、我々経営顧問も含んだマネジメントシステムを見せて欲しい。
 - 国際協力の目的をどこに置くのか、国際標準にして国際貢献することが目的なのか、コスト削減が目的なのか、経営としての位置づけを明確にする必要がある。また、他国でFBRのトラブルが起きると型式等が違ったとしても、日本のFBRも飛んでしまう可能性がある。国際協力の中で、ブレーキコントロールも含めた国際的なマネジメントも必要。
 - 人材で、科学技術エリートの育成が重要とのことであるが、原子力だけでなく、環境やエネルギー全般、国際問題等幅広い意味でのエリートが重要である。また、大学だけでなく、5～10年先を見る意味で中高生にも目を向けて欲しいし、ロールモデルになるような立派な人を派遣して欲しい。
 - 人材の議論は日本人だけが対象なのか。これだけ、世の中がフラットになり、優秀な人が世界中にいる。優秀な人材を世界から集めることがあっていいのではないか、門戸は開かれているのか？ また、機構から世界に出ているのか？
 - 予算を増やすためには、国民的な理解を得ることが重要である。それには、もんじゅが10年間止まっていたが、そのような中でも、FBRに関しては、世界の最先端であることを主張すべきと思う。また、核兵器を持たない国が原子力の平和利用をやっていることも主張すべきである。分かり易く進める工夫が必要である。
 - 一般の人に伝える、理解してもらおうという体制になっていないという気がする。上から下に伝えるという発想のようである。こういう考え方であれば、いくらやっても無駄である。中高生たちが自分で納得するようにならないとダメで、その工夫が必要。広報の仕方について検討が必要である。
 - FBRは何年までに何をするというのが明確になっており説明しやすいが、核融合はそうになっていない。研究開発スケジュールを示して、那珂や六ヶ所の必要性を示して欲しい。多くの方々の支援を得て欲しい。

- 原子力の研究開発は、長期的視野に立って考えるべき課題であるが、今、目の前で起こっている事象に目を奪われがちである。これを、そうであってはならないのだということを、如何に、理解して貰えるようにするのが重要である。そのためにも、現在の使い方も含め予算の将来展望について、透明性をもって議論していく必要がある。
- 日本において、原子力を理解してもらうためには、「エネルギーを持っていない（無資源国）」と「地球環境問題（CO2）」を説明することである。その上で、現在の技術レベルの状況とFBRや核融合それぞれの開発計画がどういう関係なのかを明確にすべきである。今やらないと間に合わないという説明をやる必要がある。FBRや核融合に順風が吹いているわけでない。現実のエネルギー問題、環境問題をきちんと把握し、科学技術の状況をよく説明し、国民に理解してもらうことが重要。
- 高レベル放射性廃棄物の処分場に関心のある自治体を、東濃や幌延などの各センターにご案内して理解に努めるということはできるのか。

以 上